

絶縁監視装置の初仕事

奥越営業所 澤田 正直

私が福井支店に勤務していた時の事で、JR福井駅前にある複合ビルでの体験です。

このビルは、たくさんのお客さまが出入りすることから、絶縁監視装置（以下「監視装置」という）の設置による24時間の漏電監視を提案していました。長きにわたり提案・説明をしていたところ、お客さまより監視装置の設置を依頼する電話が入りました。

早速、お客さまにお伺いし、当日中には監視装置の設置工事を完了しました。電気室が2か所、変圧器が21台あり、監視装置は計7台も設置するという大工事でした。

ところが取付けした翌日、このビルに設置した監視装置から漏電を知らせる警報を受信しました。「早速漏電を発見したのかな？」そんなことを考えながら、お客さまへ原因究明のため急行しました。

ビルに到着し、挨拶もそこそこに監視装置を確認したところ、電灯回路にて漏電があったことを記録するランプが点灯していました。現在の漏電状況を確認するため、電灯回路の漏れ電流を計測しましたが、漏電を示すような数値ではありません。復旧してしまったようです。しばらくの間、計測を続け様子をうかがっていましたが、漏電が再発することはありませんでした。仕方なく、お客さまには様子をみていただくようお願いし帰社しました。

次の日、再び漏電を知らせる警報を受信しました。早速お客さまへ出向き、監視装置を確認すると、昨日と同じ電灯回路にて漏電発生を記録していましたが、またも漏電が復旧した状態でした。

しかし、今回はここで終わりではありません。昨日のうちに、ビルのどこで漏電が発生しているのか絞り込みをするため、漏電探査器^(※)を仕掛けておいたのです。漏電探査器を確認すると、5階分電盤にて漏電の記録があったため、さらに調査を続けました。現在漏電が復旧していることから「今は点灯していない（先程までは使用していた）蛍光灯が原因かもしれない」と思い「OFF」となっている照明用リモコンリレーを順番に「ON」にし、漏電が発生しないか確認しました。その結果、女子ロッカー室内のダウンライトの配線が不良のため漏電することが判明し、即時、当方にて手直しを行い正常に復旧することができました。

お客さまからは、たくさんご利用客がある施設であり、漏電による事故を未然に防ぐことができたことに変感謝されました。また、「もっと早く絶縁監視装置の設置をお願いすべきだった」とおっしゃっていました。

現在、弊協会のお客さまへの絶縁監視装置設置率は87%を超え、漏電異常が発生していないか日夜監視を続けております。まだ設置されていないお客さまにおかれましても、大事な設備を24時間監視する“絶縁監視装置”の取り付けをお勧めいたします。

(※) 絶縁監視装置は2～4回路の監視であるのに対し、漏電探査器は警報を出すことはできませんが、更に多数の回路に分けて計測・記録が可能です。



絶縁監視装置



漏電探査器 (電源ラインモニター)